

教科 「国語」

科目名	現代の国語			単位数	2 単位
学科名	国語	学 年	1 学年	予定時数	7 0
1 学習目標					
日本語を用いて、適切、効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって言語能力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。					
2 指導の重点					
<ul style="list-style-type: none"> ・【知・技】 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 ・【思・判・表】 論理的に考える力や、深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広めたり深めたりすることができるようになる。 ・【主体的態度】 言葉が持つ価値の認識を深め、生涯にわたり読書に親しみ、自己の向上と共に我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通じて他者や社会に関わろうとする態度を養う。 					
3、学 習 内 容					
【1 学期】	「ことばをひらく」―・『「変わる」ことを楽しもう』（読2） ・『言葉の準備体操』（話・聞2） 「日本語を使いこなす」―・『ことばの使い分け』（書2） ・『正しく書こう』（書2）・『文を整え、文をつなぐ』（書2） ・『伝わるように話そう』（話・聞3） 「聞く力を育む」―・『聞き取りのレッスン』（話・聞3） ・『聞き取ったことをまとめよう』（書3）・『ミニインタビューをしよう』（話・聞3）				2 2 時間 読む 2 書く 9 話す・聞く 11
【2 学期】	「わかりやすく説明する」―・『ナンバーワンか、オンリーワンか』（読2 書3） 「論理を読み取る」―・『水の東西』（読4 書3） 「読書の広場」―・本のPOPを作ろう（書4） 「伝え合いのレッスン」―・『対話のレッスン』（話・聞3） ・『テーマを決めて話し合おう』（話・聞4） 「情報と向き合う」―・『どこもかしこもプラスチック！』（読3 書4） ・『レポートを書こう』（書6）				3 6 時間 読む 9 書く 2 0 話す・聞く 7
【3 学期】	「説得力を高める」 ・『意見文の基礎を学ぼう』（書4） 「社会に目を向けて」 ・『何のために「働く」のか』（読3 話・聞3） ・「自分の考えを深めながら読もう」（読2）				1 2 時間 読む 5 書く 4 話す・聞く 3
教科書	新編 現代の国語（大修館）				
副教材					

評 価 基 準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学 習 姿 勢	○	○	◎	2 0 %
提 出 物	○	○	◎	1 0 %
小 テ ス ト	○	○	◎	1 0 %
定 期 考 査	○	◎	○	6 0 %
評価の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・【知・技】 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、正確さ、わかりやすさ、適切さ、場に応じた言葉遣いを理解し、使うことができる。 ・【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」においてそれぞれの特徴をふまえて相手の理解が得られるように工夫して表現している。 ・【主体的態度】 積極的に学習課題に沿って、相手や目的に応じた表現方法を理解しようとしている。 			

教科 国語

科目名	言語文化			単位数	1 単位
学科名	国語	学 年	1 学年	予定時数	3 5
1 学習目標					
日本語を用いて、適切、効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって言語能力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。					
2 指導の重点					
<ul style="list-style-type: none"> ・【知・技】 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 ・【思・判・表】 論理的に考える力、深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広めたり深めたりすることができるようになる。 ・【主体的態度】 言葉が持つ価値の認識を深め、生涯にわたり読書に親しみ、自己の向上と共に我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通じて他者や社会に関わろうとする態度を養う。 					
3、学 習 内 容					
【1 学期】	「ことばと出会う」―・『言葉の森を育てよう』（近2 書1） 「古文に親しむ」―・『いろは歌』『古文冒頭選』（古3） ・『児のそら寝』（古3）・『古文の言葉と仮名遣い』（古2）				1 1 時間 書く 1 古典 8 近代以降の文章 2
【2 学期】	「古文に親しむ」―・『用言の活用』（古3） 「表現を味わう」―・『とんかつ』（近3） 「漢文に親しむ」―・『訓読のきまり』（古1）・『格言』（古2） ・『再読文字』（古2）『漢文を身近に感じよう』（古1） 「物語を受け継ぐ」―・『羅生門』（近5 書1）				1 8 時間 書く 1 古典 9 近代以降の文章 8
【3 学期】	「現代に生きることば」―・『守株』（古2） 「随筆を楽しむ」―・『高名の木登り』（古3 書1）				6 時間 書く 1 古典 5
教科書	新編 言語文化（大修館書店）				
副教材					

評 価 基 準				
評価項目・対象	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	評価比重
学 習 姿 勢	○	○	◎	2 0 %
提 出 物	○	○	◎	1 0 %
小 テ ス ト	◎	○	○	1 0 %
定 期 考 査	○	◎	○	6 0 %
評価の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・【知・技】 我が国の言語文化の特質や、外国文化との関係について理解している。 論旨を理解し、本文に即した説明ができる。 ・【思・判・表】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 ・【主体的態度】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に意欲的に関わろうとしている。 			